

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600157		
法人名	社会福祉法人熊晴会		
事業所名	グループホームあさひ芹沼		
所在地	栃木県日光市芹沼1739-41		
自己評価作成日	令和5年9月7日	評価結果市町村受理日	令和6年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0](http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokanri.nsf/aHyokaTop?0)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 栃木県社会福祉士会		
所在地	宇都宮市若草1-10-6 とちぎ福祉プラザ3階 (とちぎソーシャルケアサービス共同事務所内)		
訪問調査日	令和5年10月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナウイルス感染予防のため、以前のような買い物外出や行事外出ができない状況であった。5類になってからは日光市の状況を見極めながら、昼食外出を行っています。外出が出来ない分、テイクアウトや出前を利用したり、ドライブに出かけたりと気分転換を図るよう努めています。日常では各々のできることをお願いし、トライしてもらうことで残存機能を生かしてもらうよう工夫をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営推進会議は、今年度より法人の特別養護老人ホームを会場にして、法人内の3事業所が合同で開催している。令和5年4月以降は対面で開催できるようになり、他の事業所の職員や家族、自治会長、市の介護保険担当者等から意見を聞くことができ、事業所の取組みに活かしている。  
 ・事業所では、年2回避難訓練を実施している。避難所は100m程先の中学校が指定されており、防災無線の指示に従って行動している。地域との連携では、消防用の連絡網があり自治会長に連絡を入れると地域住民が駆けつける体制が整備されている。  
 ・職員が食材の買い出しを週2回行い、利用者の希望に合わせた食事を提供している。3食の手作りを基本とし、利用者の状態に応じて誤嚥対策をしている。不定期ではあるが、テイクアウトや出前を利用したりしている。利用者職員と一緒に食器を拭いたり、食事の盛り付けもしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が認識できる位置に揚げ、一人一人の出来る事などをカンファレンスで話し合いながら、実践に繋げている。	事業所の理念を玄関と事務室に掲示している。管理者は、職員会議で理念を共有し、実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は取れていましたが新型コロナウイルス感染症対策の為、法人の規定や地域の行事等が中止になっているので交流が出来ない状況である。	自治会に加入しているが、新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流が出来ない状態が続いている。昨年、隣の自治会よりSL通過時のライトアップ見学と花火の観賞イベントの誘いがあり参加している。	新型コロナウイルス感染症対策の為、地域との交流が出来ない状態が続いているが、状況を見て地域との交流ができることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や広報紙などで理解や支援をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サテライト型になっていることもあり、今年度より特養とグループホーム芹沼、塩野室と3施設の合同で行っていることもあり、さまざまな意見があり向上に活かせる。	運営推進会議は、今年度より法人の特別養護老人ホームを会場にして、法人内の3事業所が合同で開催している。令和5年4月以降は対面で開催できるようになり、他の事業所の職員や家族、自治会長、市の介護保険担当者等から意見を聞くことができ、事業所の取組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市主催の研修等の参加に努めている。運営推進会議合同開催についても相談させて頂きました。	市主催の介護に関する研修等に参加している。利用者の支援の相談等を通して協力関係が構築できるよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会、研修に参加しながら理解を深めて、身体拘束のないケアに努めています。	身体拘束をしないための研修の取組みは、年2回の内部研修と年2回の外部講師によるリモート研修に参加している。内部研修の資料は管理者が用意し職員の理解が深まるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会、研修に参加しながら理解を深めて、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用の方が入居されたことで、必要性や制度について支援しながら、学ぶことができた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族様の不安、意見を聞き入れながら説明を行い、理解・納得が頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での家族様のご意見・質問を設け出た意見、質問等を議事録やカンファレンスで伝え、反映させている。	家族の意見は、運営推進会議の他にも本人の受診時や電話で聞いている。利用者からは普段の支援の中で聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等で意見等を聞きながら、反映させている。代表者も全体集会を開催している。	管理者は、月1回の職員カンファレンスや業務中に職員の意見を聞く機会を設けている。職員の気づきやアイデアを運営に取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、条件の整備に努めてくれる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修やトレーニングを開催している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	新型コロナウイルス感染予防対策もあり、法人内としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	伝えにくい方は家族様、利用のサービス関係者に聞き入れながら、安心が確保できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時、契約時にも不安や要望を聞き入れながら関係に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用を開始する前には、管理者と職員で話し合い支援を見極めに努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除や洗濯物を干す、畳むなど一緒に行うことで関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来所時に本人の訴えや状況を伝え、一緒に支えていこう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルス感染予防対策の為、難しい状況ではあるが、ドライブにて家の近くやなじみの場所を訪ねるなど努めている。	家族や友人との面会は事務室で行われている。コロナ禍のため外出は難しいが、利用者の自宅の近くや馴染みの和菓子屋などにドライブに出掛け、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係の把握に努めながら、席替えや必要に応じた声掛けをし支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、関係性を大切にするように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族様から聞き取りしながら、困難な方は行動、仕草などから把握に努めている。	自身で伝えることができる方は、職員が本人から話を聞いて意向を把握している。本人の思いを伝えることが難しい方は、家族に確認したり、しぐさ等から判断し意向を把握している。	利用者の思いや意向を聞き取るため、職員は認知症状の理解の強化に期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、ご家族様より聞き取りを行い、ケアマネがアセスメントシートを作成し、職員間で共有して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りやカンファレンスにて一人ひとりの心身状態などを意見交換しながら把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向をもとにカンファレンス等で生活の様子、状態の変化などを収集しながら計画作成担当者が作成している。	介護計画は、現状に合った計画をケアマネジャーが作成している。モニタリングは月1回実施し、内容は申し送りや職員会議で周知している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入浴時の様子や発言また、午前・午後のご様子を別々の職員が記録している。また、申し送りで伝えて情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対して本人、家族様、職員間で話し合ったりしながら、多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス対策の為、支援が難しい状況である。出前やテイクアウトを楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の希望を優先している。必要に応じてかかりつけ医に施設情報提供書を作成し、適切な治療が受けられるようにしている。	本人・家族の希望で入居前からのかかりつけ医または事業所の協力医を選択できる。かかりつけ医を受診する場合は、家族が受診対応となる。事業所の協力医では、月1回、職員が利用者連れて受診している。事業所に看護師が配置されており、夜間はオンコール体制が整備されている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は看護師有資格者や管理者に日常の気づきや情報を伝え、適切な受診や介護を受けられるよう、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係者との情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	申し込み、契約時に看取りはしてない事、受診は緊急以外は家族様対応である事を伝えている。必要に応じて話し合いながら支援に努めている。	看取りの対応は行っていないことを、利用者・家族に説明している。事業所では、要介護3または状態が悪化した時点で特別養護老人ホームの入所申込みを勧めている。急変時には救急搬送することを家族に確認しながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応は書面化しており、定期的訓練は新型コロナウイルス感染防止の為、行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練実施。ハザードマップを活用し、避難経路に確認。地域の協力をお願いしている。	事業所では、年2回避難訓練を実施している。避難所は約100m先の中学校が指定されており、防災無線の指示に従って行動している。地域との連携では、消防用の連絡網があり自治会長に連絡を入れると地域住民が駆けつける体制が整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重した、言葉使いに努めている。お呼びする際は下の名前に「さん」を付け、申し送りや職員間では部屋番号で読んでいる。	利用者に対し人格を尊重し丁寧な言葉使いに努め、名前を呼ぶ際は「～さん」している。排泄や着替え時はプライバシーに配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現や行動の観察、傾聴に努めながら思いや希望を聞き出せるよう、声掛け支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや過ごし方を把握し、希望にそって支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りの声掛けしたり、好みの衣服の購入介助や必要に応じて家族様に連絡し支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みを聞き入れたり、準備や片づけを一緒に行っている。	職員が食材の買い出しを週2回行い、利用者の希望に合わせた食事を提供している。3食の手作りを基本とし、利用者の状態に応じて誤嚥対策をしている。不定期ではあるがテイクアウトや出前を利用したりしている。また、利用者と職員と一緒に食器を拭いたり、食事の盛り付けもしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態、摂取量を把握し対応している。水分摂取ができない方には水分ゼリーや声掛けしながら、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛け、必要に応じて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄シートを活用し、排泄パターンや習慣を職員間で共有し支援を行っている。	排泄チェックシートを活用して個々の排泄を把握している。全利用者がトイレで排泄している。職員は、トイレに同行し排泄後、失禁していないかを確認している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操、乳製品の提供。排便チェック表を活用。必要に応じて主治医と相談をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々のタイミングを計りながら、ほぼ週3回の提供に努めている。	本人のタイミングに合わせて午前と午後の時間帯を選択してもらい入浴している。浴槽には、入浴剤を使用し週3回の入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの状況に応じた対応で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者は服薬の理解が難しいので職員は服薬支援と症状の変化に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除の際は力量に合わせた役割をお願いしたり、レクなども個々のできることを優先している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止対策の為、受診以外の外出が禁止となっている。日光市の状況を見ながら、屋食外出はできる。	新型コロナウイルスの影響により、受診以外の外出は禁止している。職員がドライブ支援を行っているが、車窓からの花見やドライブスルーで飲み物を購入するなど短時間での外出となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持することは困難であるが、お預かりしていることは伝えているので、必要に応じて使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望の電話に支援をしている。契約時に家族様にも承諾を得ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間では環境整備を行い、生活感や季節感を取り入れながら居心地よく過ごしてもらえるよう工夫をしている。	共有空間にあるリビングは広く、利用者はソファに座って自由に過ごしている。また、リビングからウッドデッキに出て話をしたり、お茶を飲んだりして過ごしている。朝は職員と一緒に掃除をする等、自分が住んでいる家という意識を持てるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせるように自席以外のテーブルやソファを設置したりし、工夫に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族様の好みの品が持ち込まれている。	各部屋には、ベッドやエアコン、洗面台、掛け時計、温度計が備え付けられている。テレビや写真、仏壇など、本人が使い慣れた物や好みの物を持ち込み、心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」や「わかること」を見極めながら、自立した生活が送れるよう工夫をしている。		